

4 中間評価の総括

「健康そうじゃ21」では、全世代の市民一人ひとりが、心身ともに健やかで豊かな人生が送れるよう、健康づくりに主体的に取り組むとともに、地域ぐるみで健康を支えるまちづくりを推進してきました。

「健康そうじゃ21」に掲げる基本目標及び評価項目の中間評価を実施することにより、課題が明確になるとともに今後の方向性が見えてきました。

ライフステージごとに総括してみますと、妊娠期では妊娠中の飲酒率が微増しており、妊娠中の飲酒と喫煙のリスクについてあらゆる機会を捉えて普及啓発をしていきます。乳幼児期では核家族化の進展と地域における関係性の希薄化等により、周囲に相談できず、孤立感・不安感を抱える子育て家庭が増加し、虐待につながるケースもあり得るため、子どもの病気・急変時に適切に対応できるための知識や子供との関わり方を身に付け、地域とのつながりが持てるよう、子育て世帯をサポートしていきます。学童思春期では朝食の欠食や間食、夜食、運動不足などの要因により小中学生の肥満の割合が増加しているため、朝食の摂取に加え、栄養バランスの必要性を普及啓発するとともに、積極的に体を動かすことを推奨していきます。成人期では生活習慣病の各指標の悪化、特に40～50歳代の男性の健診有所見率の増加傾向といった重大なリスクに対応するため、特定健診の効果的な受診勧奨を図っていくとともに、生活習慣病予防への意識変容・行動変容につながる事業を強力に推進していきます。高齢期では見守りネットワーク事業者が大幅に増加するなど地域の見守り体制が強化され、高齢者の約9割の方が地域活動へ参加ができている状況であるため、引き続き地域とのつながりを深められるよう、地域行事へ自然と参加できるような施策の推進とともに、介護予防と認知症予防にも力を入れていきます。

また、データヘルス計画を総括してみますと、特に、生活習慣病の各目標項目の悪化には危機感をもっています。生活習慣病は、医療費に多大な影響を及ぼすだけでなく、健康寿命延伸の最大の阻害要因であり個人のQOL低下を招きますが、生活習慣を改善することで予防できる疾病です。特定健診の受診率や特定保健指導の実施率の低迷から、健康無関心層が一定数存在し、未受診者対策が急務と考えています。また、国民健康保険の総医療費では循環器系の疾患（高血圧症、心疾患、脳血管疾患など）、内分泌、栄養及び代謝疾患（糖尿病、脂質異常症など）、新生物、尿路性器系疾患（腎不全など）が約5割を占めるとともに、健診結果より全ての年代で血圧高値とHbA1Cの増加傾向が見られることから、生活習慣病のステージが改善するよう又は進行しないよう、血圧対策、糖尿病予防対策、がん予防対策を最優先事項として取り組んでいかなければなりません。（図1参照）

さて、当市では、福祉文化先駆都市の実現に向けて、全国屈指福祉会議を毎年開催し、福祉王国プログラム（図2参照）により「医療費抑制1億円」や「見守り100%孤独ゼロ」などの大きな目標を掲げるとともに、国や県の動向、そして社会情勢を注視しながら、令和元年度では、「“歩得”健康商品券」「家庭看護力の強化」「糖尿病性腎症重症化予防」といった重点施策を展開し、目標達成に向け果敢にチャレンジしていきます。今後も、全国屈指福祉会議と連携し、医療費適正化推進委員会で進捗管理を実施し、PDCAサイクルを活用しながら課題に対応した各種施策を着実に推進していきます。また、生涯を通じて健康づくりに取り組むには、地域保健が学校保健と連携し食育を推進していくことや、職域保健と連携し相互の役割や取組を理解しながら活動していくことが重要であるため、連携強化を図っていきます。

引き続き、健康SOJAの実現を目指し、市民が生涯にわたり健康でいきいきと住み慣れた総社で幸せに暮らしていけるよう、市民一人ひとりだけではなく、家族や地域、職場、関係機関、行政が一体となって、健康づくりに取り組んでいきます。

最後に、中間評価報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました委員会の委員の皆様、岡山県立大学大学院保健福祉学研究科の学生の皆様、関係者の皆様、アンケートにご協力いただいた市民の皆様に厚く御礼を申し上げます。

【図1：生活習慣病のイメージ】



【図2：全国屈指福祉会議】

福祉王国プログラム2019の各部会

住民一人ひとりに寄り添った支援を実現するため、各部会で次のとおり目標を設定する。

